

## 2013年ユーロバイク展及び DEMO DAY2013 参加報告

(一財)自転車産業振興協会(自振協)は、日本の自転車関連産業の国際貿易促進のため、従来から日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行なってきた。2013年ユーロバイク展についても、自振協による共同出展ブースを設け、日本企業7社の出展を支援したが、その関連で同展を視察したので、展示会の概要を以下通り報告する。

### 1. 2013年ユーロバイク展

#### ①展示会概要

ドイツ南部のフリードリッヒスハーフェン見本市会場にて、今年で第22回目を数える世界最大の自転車展ユーロバイク(EUROBIKE2013)が、2013年8月28日(水)~31日(土)の4日間、開催された。ビジネス関係の来場者数は前年比3.4%増の45,200人と昨年より更に増え、出展社数は前年より3社多い52カ国・地域1,280社となった。更に会期中1,883人(前年1,889人)の取材陣が訪れ、最終日の一般公開日には20,400人の一般来場者が会場に詰めかけた。

また、展示会初日、開会セレモニーにドイツのメルケル首相が駆けつけ、地元ドイツメーカーのブースも訪れ、展示会のムード高揚に花を添えた。今回の首相訪問は、連邦政府等をはじめ関係各所から環境にやさしい移動手段として「自転車」に注目が集まっている証であると主催者は述べ、会場内は欧州危機の先行きの不透明さを感じさせない熱気に溢れた。



コラテック



キャノンデール

主催：メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社

開催地：ドイツ・フリードリッヒスハーフェン見本市会場

会期：2013年8月28日(水)~31日(土) 8/28-30 ビジネスデー、8/31 一般公開

展示会場及び面積： 14 ホール、100,000 m<sup>2</sup>（昨年同様 ※A3, A4 仮設部分は除く）

入場者数： ビジネス来場者 111 カ国 45,200 人（昨年 97 カ国 43,700 人超）

一般来場者 20,400 人（昨年 20,500 人超）

出展社数： 52 カ国・地域 1,280 社 ※9/5 付出展者リスト集計（昨年 49 カ国 1,277 社）

EUROBIKE2013 の国・地域別の出展者は、依然、地元のドイツが最多であるが、前年比 2.8% 減の 414 社となり前年より 12 社減った。他の欧州地域では、上位のイタリアが 164 社、オランダは 49 社、英国は 39 社、スイス 35 社及びスペイン 22 社等と、前年より 1、2 社程度の増減にとどまったのに対し、フランスは前年より 4 社増の 25 社、オーストリアは前年より 11 社増の 33 社等と増加した。しかし、オーストリアの場合は、増加分の多くはツーリスト向けの地域観光案内等のブースであった。

アジア地域からの出展者では、ここ数年増加を続けてきた台湾が、前年より 2 社減の 223 社と僅かであるが減少に転じた。中国の出展者は前年より 3 社多い 63 社となった。その他では韓国、香港及びパキスタンからの出展者は前年より増え、更にインドネシアから新たに出展がある等、アジア地域からの出展はわずかではあるが増えつつある。

その他の地域では、米国の出展者は前年より 3 社減少し 67 社となったが、オセアニア地域からはニュージーランドからの出展が復活し、イスラエルとトルコの出展者もわずかに増えた。更に南米地域から新たにアルゼンチンの出展者が来る等、出展参加国・地域は昨年より 3 カ国増え、合計 52 カ国・地域となり、ますます国際展示会としての地位を高めたといえる。

## ②よりシンプルなものへ

いくつかの大型ブースではかつて数多くの車種を各色揃え、通り抜ける隙間もないほど自転車を展示していたが、ブース総面積は従来通りであっても、展示台数をかなり絞り込み、空間に余裕も持ったシンプルな展示形態にした出展者もいくつか見られた。これらは来場者に商品をよく見てもらうため展示品を集約したと見られるが、一方で長引く欧州不況により経費節減を心がけた側面もあったとも考えられる。



蛍光色が多い自転車ウェア類

また、自転車のフレームカラーのトレンドとして、数年前まではスポーツ車、特に高級なカーボンフレームのMTBやロードバイクのフレームカラーは黒・白・赤をベースに、目立つロゴ等をちりばめた派手なデザインが各所で多く見られた。しかし、今年は黒色をベースに緑や青のカラーリングに同色系ロゴ等の控えめのデザインが増えていた。また、昨年から蛍光色の緑、黄等をベースにした自転車用衣料類が増えていたが、今年は自転車についても中価格帯のMTB等を中心に緑、青、黄等の単色フレームも増えつつあり、また、シティ車・トレーニング車では、女性向きのパステルカラーのフレームも並べ、装備部品の機能・性能面で差異の出にくい中～低価格帯の自転車では、ドイツ市場を意識した従来の黒、紺、銀等が主体の無機質な配色から脱して、色彩やデザインにより差別化を図る試みも見て取れた。



キューブ



ベルガモント



ロッキーマウンテン



スコット

### ③Speed Pedelecs の台頭

本年も展示会場で注目を集めた車種、商品は電動アシスト自転車 (EPAC) 及び電動自転車 (E-bike) と関連部品であった。同展オフィシャルカタログによると、2013 年の本展示会の E-bike 出展者数は前年より多い 158 社となり、E-bike と EPAC に重複する出展者も多いものの、EPAC は 82 社となり、展示会場中庭部分にある EPAC と電動車関連の試乗コーナーは多くの人々で賑わっていた。

図表 1: E-bike、Pedelecs 出展者数の推移 (単位:社)

出展車種	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
E-bikes(電動自転車)	9	16	30	47	76	110	101	156	158
Pedelecs(電動アシスト自転車)	5	4	15	23	30	52	55	88	82

※同カタログ上では電動アシスト自転車(EPAC)を Pedelecs と表記

EPAC の車種としては、従来のシティ車、トレッキング車タイプに加え、年々スポーツ車タイプの EPAC が増えたが、本年は運搬用車両に電動ユニットを付けたタイプを訴求するブースも見られる等、多様化は更に進んでいる。また、本年はモーター出力 250W、アシスト速度 25km/h までの EPAC よりも出力が高いモーター（約 350~500W 程度）を付け、アシスト速度は 45km/h までといった、より高速・高出力の電動自転車「Speed Pedelecs」が一層増えた。



Speed Pedelecs (左:ハイバイク、右:フォーカス)

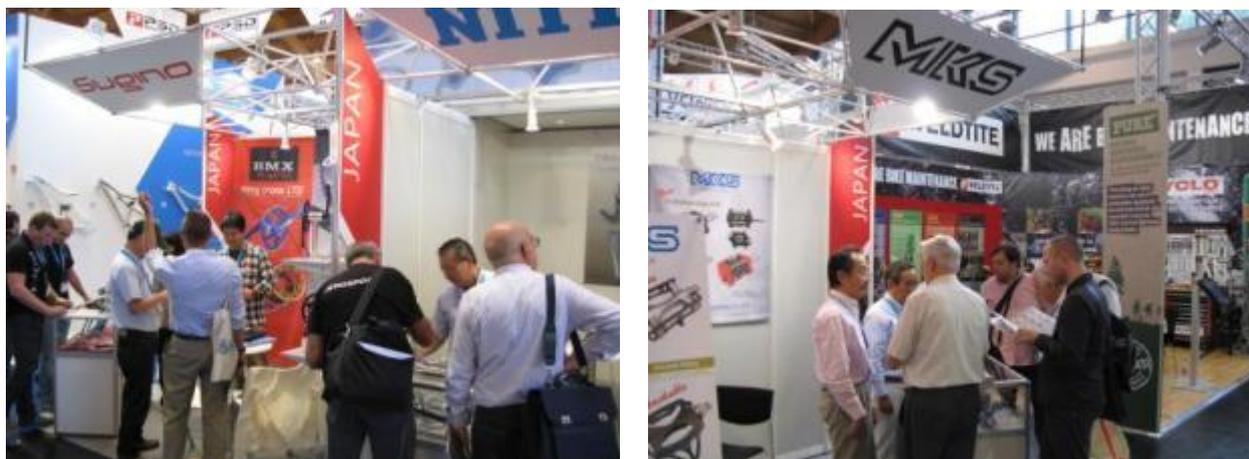
近年、一つのメーカーやブランドで、全車種に同一の電動ドライブユニットを装備するよりも、各車種に合った様々なタイプのユニットを装着する「ユニットの多様化」が見みられるが、各完成車メーカーの新商品の出展状況を見ると、地元ドイツのメーカー、ボッシュのユニット装着車が今年は特に目に付いた。昨年は独家电メーカーの AEG、韓国の電機メーカーのサムソン等、自転車産業界以外から EPAC 関連品への参入が見られたが、本年は大手タイヤメーカーのコンチネンタルが電動ユニットを出展し、また、同車種の欧州ブーム初期から市場に積極的に参入してきた日本企業のパナソニック・サイクルテック (Panasonic) が満を持して出展する等、現在、欧州市場ではボッシュが一步抜きん出た感はあるものの、電動ユニットのシェア争いはまだ続くと予想される。

#### ④JBPI 共同出展ブース

本年 11 回目の出展となる自転車産業振興協会 (JBPI) ブースは、昨年と同じ小間位置の B2-304 に 60 m<sup>2</sup> の 2 コーナーブースを設け、(株)スギノエンジニアリング (SUGINO)、(株)三ヶ島製作所 (MKS)、(株)日東 (NITTO)、(株)ヨシガイ (DIA-COMPE)、パナソニック ポリテクノロジー (株) (PANARACER)、(株)ハチスカ (HACHISUKA) 及び(株)近藤機械製作所 (GOKISO) の計 7 社の日本企業

が共同出展した。

JBPI ブースは B2 ホール中央のメインストリートに面し、来場者の往来が頻繁な好位置にあり、ブレーキ、ペダル、ハンドルバー、ステム、ギヤクランク等の日本の高品質自転車部品が集まる場所として知られている。各社とも新商品の展示活動を行うとともに、今回増設した 2 階部分では活発に各社の商談が行なわれ、新デザインとなった JBPI ブースは来場者から多くの注目を集めた。



JBPI 共同出展ブース（左；Sugino 及び NITTO、右；MKS）

図表 2：2013 年ユーロバイク展共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所	電話 F A X	主な出品物
(株)三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 所沢市糞谷 1738	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル
(株)スギノエンジニアリング SUGINO	〒630-8144 奈良市東九条町 287-1	0742-62-5311 0742-62-5320	クランク、チェーンリング等
(株)ヨシガイ DIA-COMPE	〒571-0008 門真市東江端町 7-25	072-884-8020 072-884-8030	ブレーキ、ヘッドセット等
(株)日東 NITTO	〒334-0013 川口市南鳩ヶ谷 3-23-7	048-286-7771 048-286-7770	ハンドルバー、ステム等
パナソニック ポリテクノロジー(株) PANARACER	〒530-0044 大阪市北区東天馬 2-9-1 若杉センタービル 8F	06-6354-7811 06-6354-7834	タイヤ
(株)ハチスカ HACHISUKA	〒444-2111 岡崎市西阿知和町御用田 1-1	0564-45-7171 0564-45-6262	パンクしないチューブ
(株)近藤機械製作所 GOKISO	〒497-0048 愛知県海部郡蟹江町舟入 1-130	0567-95-1343 0567-95-7296	完組ホイール、ハブ

## ⑤今後について

昨年、米国大手ブランドのトレックが EUROBIKE 出展を取りやめ、自前のハウスショーに切り替えたことにより、その動きに追随するメーカー、ブランドがあるのではないかと思われたが、2013年同展の主要出展者の顔ぶれは昨年と殆ど変わりなく、欧州市場においては、各社が同展参加を重要視していることが伺えた。しかしながら、本年の出展者数は、見本市会場の設備から見て最大許容量に近く、これからも出展者の総数が増え続けるとは思えないが、新たな国・地域からの出展者が少数ながら増える可能性はある。因みに本年のビジネス来場者の半数以上56%はドイツ国外からの来訪であることから、出展者、来場者共に欧州地域にとどまらず、ますます国際色豊かになっていくことも考えられる。

昨年は8月中旬にミュンヘンで開催された ISPO Bike は、開催時期が不評であったため、本年は以前の7月開催に時期を戻しが、会期中は天候不順の影響もあり、出展者数など規模的には昨年より成長したとは言い難い。同展は今後ユーロバイクに対抗して規模拡大を目指すよりも、出展内容をシティ車やEAPC等、都市交通向けの車種に絞るなどして、内容を集約し他展との差別化を図りたい意向ともみられる。

現在、長引く欧州の経済危機を脱したとは言い難い状況のなか、比較的、堅調とされるドイツ経済にどのような影響が生じるのか不透明であり、中長期的な予測は困難であるが、それでもしばらくの間は、ユーロバイクが世界一の自転車展示会の位置にあると思われる。

次回 EUROBIKE2014 は 2014年8月27日(水)～30日(土)の4日間の予定である。

参考資料： 2013年ユーロバイク展 国・地域別出展者数

国・地域名	出展社	国・地域名	出展社
ドイツ	414	マルタ	1
イタリア	164	キプロス	1
オランダ	49	アイルランド	1
英国	39	サンマリノ	1
スイス	35	リヒテンシュタイン	1
オーストリア	33	アンドラ	1
フランス	25	イスラエル	5
スペイン	22	トルコ	3
チェコ共和国	14	南アフリカ	1
ベルギー	11	チュニジア	1
スウェーデン	10	米国	67
デンマーク	6	カナダ	6
ハンガリー	5	アルゼンチン	1
ポルトガル	5	オーストラリア	3
スロバキア	4	ニュージーランド	2
ポーランド	4	台湾	223
ブルガリア	3	中国	63

フィンランド	3	日本	16
ノルウェー	1	香港	10
ルーマニア	1	タイ	5
ルクセンブルク	1	パキスタン	5
ギリシャ	1	韓国	5
ラトビア	1	シンガポール	1
リトアニア	1	スリランカ	1
スロベニア	1	マカオ	1
セルビア	1	インドネシア	1
		合計 52 カ国	1,280 社

※上記数値はメッセ事務局 9/5 付出展者リストより集計

## 2. DEMO DAY2013 参加報告

### ①DEMO DAY 概要

2013年ユーロバイク展前日、8月27日(火)に大規模な自転車試乗会 DEMO DAYがドイツ・アルゲンブールで実施された。会場からシャトルバスで40分程の場所にある試乗会場は緑豊かな牧草地にあり、試乗車を様々な走行環境で試すのに絶好なロケーションとなっている。

展示会場と試乗会場は8:50~18:30の間、20分毎にシャトルバスが往復していたが、実際には朝夕のピーク時に多くの参加者が試乗会場に訪れたため、1台のシャトルバスに乗りきれず1時間30分以上もバスの到着を待つ場面も見られた。シャトルバスは着座乗車が基本であり、1回のバス最大搭乗人数と参加者の割合に無理があった。今後は移動手段の改善が求められる。

当日の現地天気予報は雷雨となっていたが、午前中は太陽も見えて比較的暖かい絶好の日和となり、会場は直接新製品の性能を確認しに多くの来場者で溢れていた。この試乗会には展示会出展者の他、自転車販売店や各国のプレス関係者が参加しており、2013年の来場者数は2,318人(昨年1,938人)、訪れたジャーナリスト数は732人(同728人)となり、いずれも昨年を上回る人数であった。

試乗会参加は、会場入り口にある受付で事故等の責任所在に関する誓約書に署名すると、(出展者・プレス・一般来場者)ごとに色分けされたリストバンドを渡されて初めて各出展ブースから自転車を借り受けることが可能となる。発表されたばかりのニューモデルに直接乗車することで、その製品性能や長短所などのリアルな情報を得ることが可能となっている。



受け付け



リストバンド



会場の様子

## ②出展ブース会場

展示自転車はロードバイクやMTB 軸に、電動自転車(アシスト付含む)や小径車、折りたたみ車、リカンベントからタンデム車まで幅広いタイプの自転車があり、各出展メーカーの製品特色を活かしたラインナップが見られた。出展者数は147社(昨年133社)と過去最高を記録した。中でもMTBの展示が多くみられたのは欧州でのMTB需要の高さもあるだろうが、会場に設営された試乗コースがバリエーション豊かなダートコースを有していることもその一因と思われる。また、ロードバイクやMTB等のスポーツ車の他にベルトドライブ車やトレッキング車も人気を集めていた。

## ③試乗コース

試乗コースは乗り手のレベルに応じて自由に選択できる全5経路(舗装路2経路、未舗装路3経路)からなり、参加者は思い思いの自転車でその性能を確かめながら走行していた。舗装路は6.5kmと12.6kmの2つが設定され、のどかな平地基調の丘陵地帯をひた走るコースとなっている。ロードバイクで集団走行やスプリントなど、より実践的な想定で走ったり、サイクリングペースで景色を楽しみながらゆっくり走ったりと参加者の走行スタイルは様々である。しかし基本的に大きな斜度の付いた箇所は無いため、登坂時の走行性能を確認する

には少々物足りないコースに思えた。

未舗装路は初/中/上級の3コースが設定され、特に上級コースは厳しい起伏やスイッチバックに富んだダート路で、クロスカンントリーからダウンヒルの要素まで盛り込んだ MTB の走行性能を十分に引き出して確認できるハードなコースとなっている。当日は 14 時頃から降り出した雨でコースがウェット状態となり、また一段と走り応えのある状態であった。どのコースも最低限の案内標識しかなくスタッフもいないため、道に迷うこともコースアウトも全て自己責任となっている。逆に設定されたコース以外の芝生やゴロ岩地帯を走って色々な状況で性能を試す参加者も多く見られた。



試乗コースの様子

以 上